

2024年 5月 7日

2023年度 総合文化研究所研究助成報告書

研究の種類 ※該当する()に ○を付ける	・共同研究 (○) ・個人研究 ()	
研究代表者 (所属・職・氏名)	ビジネス学部 教授 荒井弘毅	
研究課題名	リーダーシップの共立の理念と実践	
研究分担者氏名	所属・職	役割分担
岩城 奈津 森 理宇子 湯浅 且敏 齊藤 萌木	ビジネス学部 准教授 ビジネス学部専任講師 リーダーシップ 准教授 教育センター専任講師	実践からの研究題材の抽出と研究の実践 実践からの研究題材の抽出と研究の実践 理論的研究と実践面での支援 理論的研究と実践面での支援
研究期間	2023年4月1日 ～ 2024年3月31日	

研究実績の概要 (1)
<p>1. 研究の背景</p> <p>共立女子学園では、「リーダーシップの共立」という教育方針を掲げ、女性の自立と自活を支援するリーダーシップ教育を推進している。リーダーシップは、明確な目標の設定、共有、率先した行動、および他者との相互支援を通じて目標達成を目指す能力と定義される。現代社会における不確実性、複雑性、曖昧性の増加に対応するため、共立女子大学・共立女子短期大学では、2024年4月にリーダーシップ教育センターを設置し、リーダーシップ教育の推進体制を整えることになる。本研究では、リーダーシップ開発プログラムの整理・実践を行うことを目的とするものであった。</p> <p>2. 実施した主な活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーシップ開発研究セミナーの全6回実施、 ・中高生への情報発信 (LA 学生による母校訪問、高校生向けワークショップ)、 ・企業訪問およびPBLを通じた実践的学習、 ・学会発表による情報発信強化 <p>3. 達成した目標</p> <p>リーダーシップ開発に関する積極的な情報発信、学部の魅力の多面的な発信</p> <p>4. 総括</p> <p>2023年度に実施した活動を通じて、リーダーシップ開発の体系化と多面的な実践・評価・研究が進められた。これにより、リーダーシップ開発に関する積極的な発信と学部の魅力の伝達が達成された。特に、リーダーシップ教育の効果を実証し、その有効性を社会に広く伝えることができた点は、今後の教育・研究活動において重要な貢献となる。</p>

研究実績の概要（2）

実施した主な活動

1. リーダーシップ開発研究セミナーの実施

全6回にわたるリーダーシップ開発研究セミナーを実施。各セミナーはリーダーシップの理論と実践に焦点を当て、学生、教職員、外部講師を含む幅広い参加者に対して開かれた。特に注目されたのは、女性リーダーシップや組織内でのリーダーシップの役割に関するセッションで、参加者からの積極的なフィードバックが得られた。

	実施日	テーマ	講師（敬称略）	所属
第1回	3月9日	リーダーシップの研究と開発(R&D)	日向野幹也	早稲田大学グローバルエデュケーションセンター教授
第2回	4月13日	女性リーダーシップの研究と実践ーユニバーサルなリーダーシップ開発は可能か？	岡村利恵	お茶の水女子大学 グローバルリーダーシップ研究所 特任講師
第3回	5月9日	みんながリーダーシップを発揮できる組織と社会づくりのためのある教育者のジャーニー	泉谷道子	創価大学経営学部准教授
第4回	6月13日	リーダーシップ開発と「becoming」	和栗百恵	公立大学法人福岡女子大学国際文理学部 准教授
第5回	9月5日	「事務局」が発揮するリーダーシップとは ～教育プログラムにおける職員の関わりと実践～	大竹秀和	立教大学教務部学部事務5課課長補佐
第6回	3月19日	1. ILA (International Leadership Association) Global conference 参加報告 2. 認知科学会発表を中心としたリーダーシップ教育に関する研究報告 3. LA成長支援報告	森理宇子 齊藤萌木 岩城奈津	本学ビジネス学部専任講師 本学全学教育推進機構職員 本学ビジネス学部准教授

2. 中高生への情報発信

LA(学習アシスタント)を活用した母校訪問プログラムと「高校生のためのリーダーシップ開発」ワークショップを実施。これらの活動を通じて、中高生に対して大学でのリーダーシップ教育の重要性と魅力を伝えた。

3. 企業訪問と PBL(Project Based Learning)

学生が企業訪問を行い、実際のビジネス環境で直面する課題に取り組む PBL を実施。特に、アステラス製薬株式会社訪問では、新薬開発におけるチームリーダーシップの重要性について深い洞察を得た。

4. リーダーシップキャラバンとアクションラーニング

イノベスト社主催のリーダーシップキャラバンとアクションラーニング協会主催の会への学生派遣を実施。これらの活動を通じて、学生は社会人や他大学の学生と交流し、リーダーシップスキ

ルの向上と自己啓発の機会を得た。

5. 学会発表と情報発信の強化

リーダーシップ開発に関する研究成果を国内外の学会で発表し、リーダーシップ教育の重要性と効果を広く社会に伝えることに成功した。また、ビジネス学部紀要論文の発行や『ビジネス学への招待』の出版を通じて、学部のリーダーシップ教育に対する取り組みを積極的にアピールした。達成した目標

本年度の活動を通じて、「リーダーシップ開発に関する積極的な発信を行い、学部を多方面からアピールする」という目標を達成。リーダーシップ教育の重要性を内外に広く知らせ、学部の魅力を多面的に伝えることができた。

評価と反省

各活動は、参加者からの肯定的なフィードバックを得ることができ、リーダーシップ教育の充実と学部の魅力の発信に寄与した。しかし、より多くの学生がリーダーシップ開発プログラムに参加し、積極的に関与するための方法をさらに模索する必要がある。今後は、学生のニーズに合わせたプログラムの開発と、企業や地域社会との連携を強化し、リーダーシップ教育の質の向上を目指す。

今後の展望

引き続き、リーダーシップ開発の体系的な整備と効果的なプログラムの実施を通じて、学生のリーダーシップ能力の向上を図る。また、リーダーシップ教育の社会への影響力を拡大し、より多くの若者が自立と自活を目指せるよう支援していく。

結論

2023年度のリーダーシップ教育推進活動は、共立女子大学の教育方針「リーダーシップの共立」を具体化し、学生のリーダーシップ能力の涵養に貢献した。今後も、教育の質の向上と社会への貢献を目指して、リーダーシップ開発プログラムの充実に努めていく。

研究発表(印刷中も含む)雑誌および図書

その他、リーダーシップ開発研究セミナー資料 (別添)